

HP ProLiant ML150 G2サーバ インストール シート



取り付けを開始する前に、
必ずこのカードをお読みください。

© Copyright 2004 Hewlett-Packard Development Company, L.P.
本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

Microsoft、WindowsおよびWindows NTは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。Intel、インテル、PentiumおよびItaniumはアメリカ合衆国およびその他の国におけるインテル コーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの米国ならびに他の国における商標です。Linuxは、Linus Torvalds氏の登録商標です。

本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で使用される場合は、仕様の変更を必要とすることがあります。

本書に掲載されている製品情報には、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。

HP ProLiant ML150 G2サーバ インストール シート

初版（2004年6月）
製品番号 368149-191

サーバの設定

- すべての周辺装置を接続します。
 - キーボード
 - マウス
 - モニタ
 - UPS

注：HP ProLiant ML150 G2 Server Support CDを参照してください。このCDを使用して、サーバの最新情報を確認します。また、このCDには、このインストールシートには掲載されていない追加情報も収録しています。

- 次の手順を実行して、サーバのBIOSバージョンを確認します。
 - サーバの電源を入れます。
 - HPロゴ画面で**Esc**キーを押します。
 - POST起動中に、サーバのBIOSバージョンをメモします。
 - メモしたサーバのBIOSバージョンを、HPのWebサイト<http://www.hp.com/>（英語）に掲載されているこのサーバの最新BIOSバージョンと照合します。
 - 最新のBIOSが搭載されていない場合は、ここでBIOSを更新します。HPのWebサイト<http://www.hp.com/>（英語）から入手できる『HP ProLiant ML150 G2 Server Maintenance and Service Guide』を参照してください。
- インストールしたいオペレーティング システム（OS）をインストールします。HP製ドライバとユーティリティは、Support CDに収録されています。最新バージョンのドライバとサポートされているオペレーティング システムに関する情報については、HPのftpサイト<ftp://ftp.compaq.com/pub/products/servers/os-support-matrix-310.pdf>（英語）を参照してください。

デフォルトのブート優先順

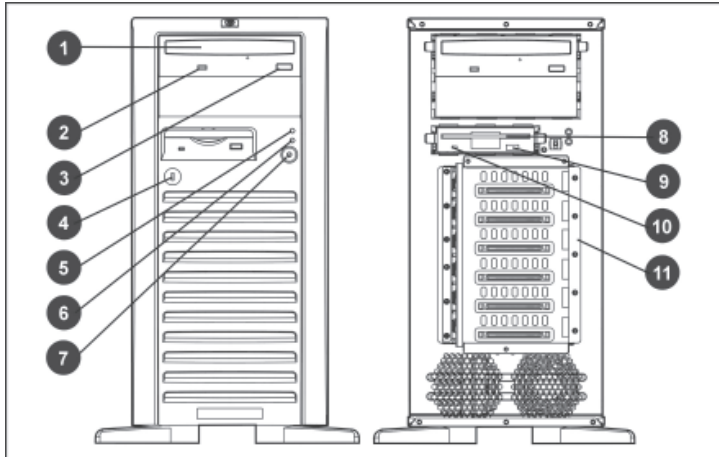
デフォルトでは、サーバは、次の順序でブートデバイスを検出します。

- Legacy Floppy Drives（フレキシブル ディスケット ドライブ）
- USB FDC（外部USBディスク ドライブ）
- IDE 0（IDE CD-ROMドライブまたはハードディスク ドライブ）
- PCI SCSI（SCSIまたはSATAハードディスク ドライブ）
- PCI LAN（内蔵LAN）

各部の説明

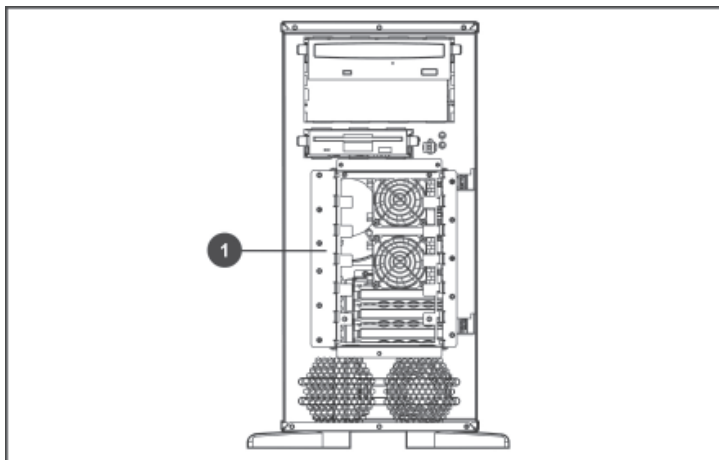
フロントパネルの各部

ホットプラグ対応モデル



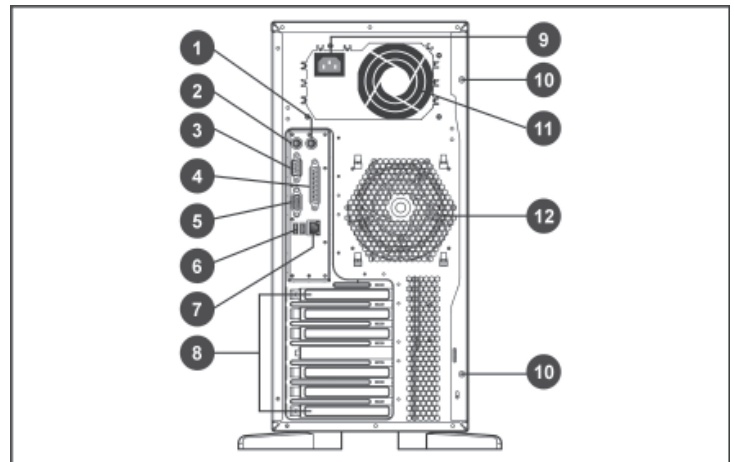
番号	説明
1	CD-ROMドライブ
2	CD-ROMドライブ動作インジケータ
3	CD-ROMドライブの取り出しボタン
4	ベゼルロック
5	ドライブ動作インジケータ
6	電源インジケータ
7	電源ボタン
8	ディスケットドライブ (FDD)
9	FDDの取り出しボタン
10	FDD動作インジケータ
11	ホットプラグ対応ハードディスクドライブ (HDD) ケージ

非ホットプラグ対応モデル



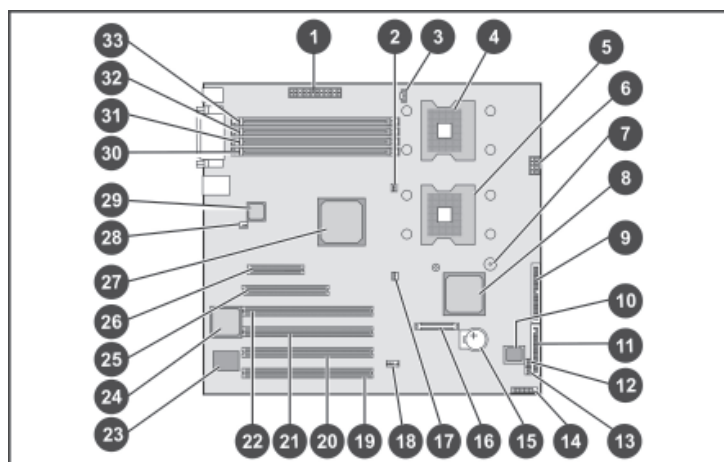
番号	説明
1	非ホットプラグ対応ハードディスクドライブ (HDD) ケージ

リアパネルの各部



番号	説明
1	PS/2マウスポート (緑色)
2	PS/2キーボードポート (紫色)
3	シリアルポート (青緑色)
4	パラレルポート (赤紫色)
5	モニタポート (青色)
6	USB 2.0ポート (黒色)
7	10/100/1000 LANポート (RJ-45)
8	IOスロットカバー
9	電源コネクタ
10	取り外し可能アクセスパネル用つまみネジ
11	パワーサプライユニットファン
12	システムファン

システム ボードの各部

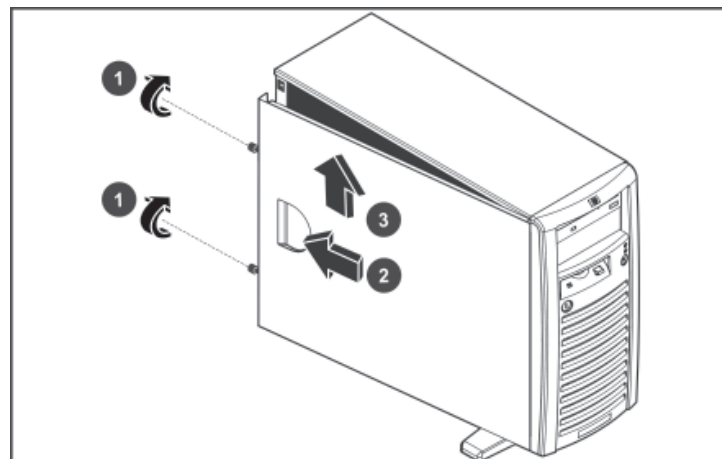


番号	説明	コード
1	24ピン、電源コネクタ	J20
2	3ピン、CPUファン コネクタ	J26
3	5ピン、電源コネクタ	J19
4	プロセッサ1ソケット	U33
5	プロセッサ2ソケット	U32
6	8ピン、電源コネクタ	J40
7	内蔵ブザー	BZ1
8	インテル サウス ブリッジ チップセット	U34
9	プライマリIDEチャンネルUDMA-33	J42
10	BIOSフラッシュROM	U44
11	34ピン、FDDコネクタ	J41
12	3ピン、フロント システム ファン コネクタ	J37
13	3ピン、フロントシステム ファンコネクタ	J36
14	20ピン、フロントパネルI/Oコネクタ	J34
15	バッテリー	BT1
16	リモート管理カード コネクタ	J27
17	3ピン、CPUファン コネクタ	J43
18	5ピン、内部USB 2.0コネクタ	J25
19	PCIスロット1 (64ビットPCI-X)	PCIX1
20	PCIスロット2 (64ビットPCI-X)	PCIX2
21	PCIスロット3 (64ビットPCI-X)	PCIX3
22	PCIスロット4 (64ビットPCI-X) *	PCIX4
23	Winbond Super I/Oチップセット	U3
24	ATI Rage XLグラフィック チップセット	U4
25	PCIスロット5 (32ビット)	PCI1
26	PCIスロット6 (PCI-E x4)	J17
27	インテルノース ブリッジチップセット	U18
28	3ピン、システム ファンコネクタ	J11
29	Broadcom GbE LANチップセット	U11
30	DIMMSロット4	DDR3
31	DIMMSロット3	DDR4
32	DIMMSロット2	DDR5
33	DIMMSロット1	DDR6

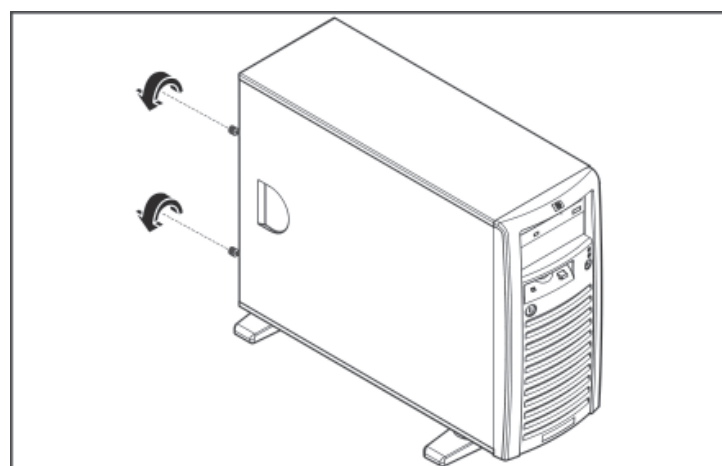
* SCSIカードまたはSATAカードを取り付け済み

内部コンポーネントへのアクセス

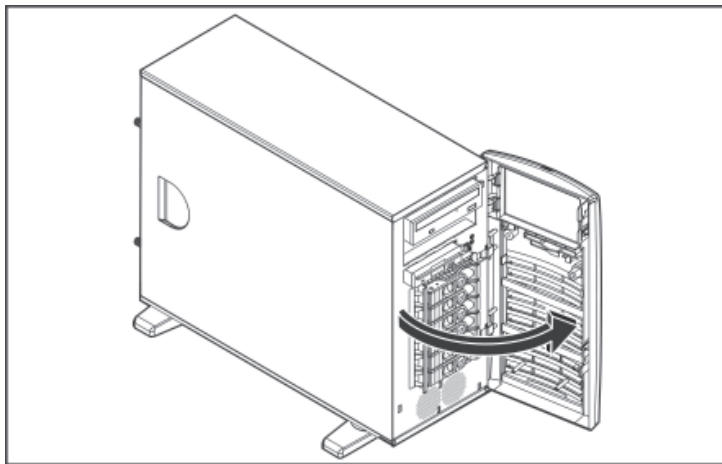
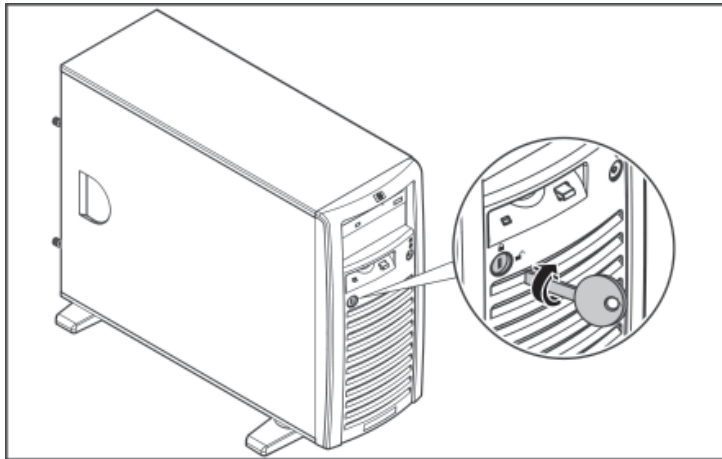
アクセス パネルを開く



アクセス パネルを閉じる



フロント ベゼルを開く

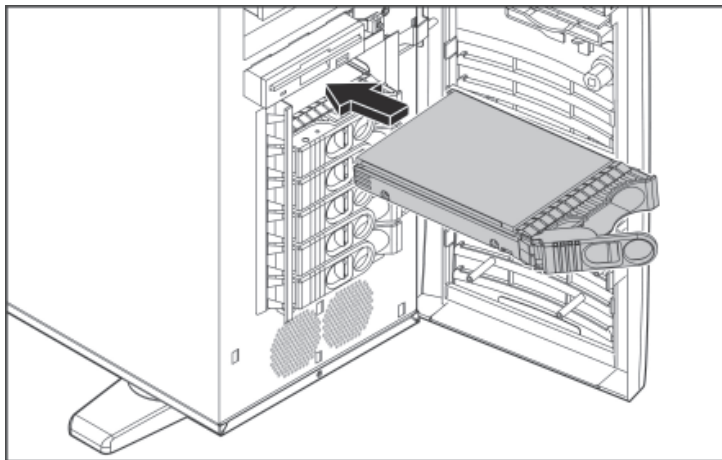


大容量記憶装置の取り付け



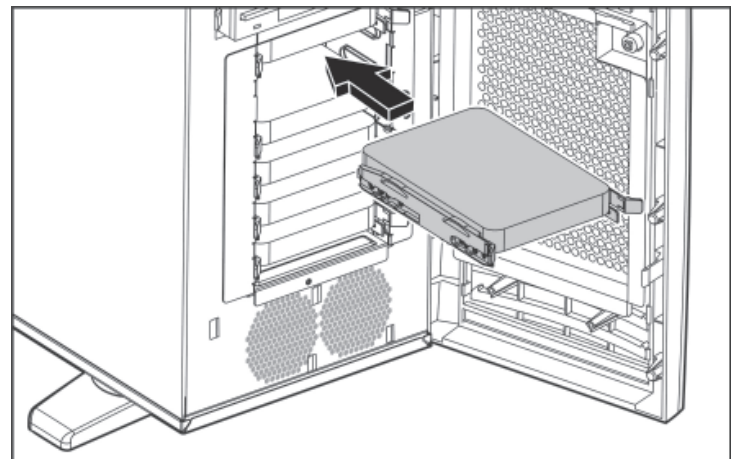
注意: 静電気によってドライブが損傷することがあります。ドライブを取り扱う前に、非塗装の金属面に触れるなどして、静電気を放電してください。

ホットプラグ対応SCSIモデル

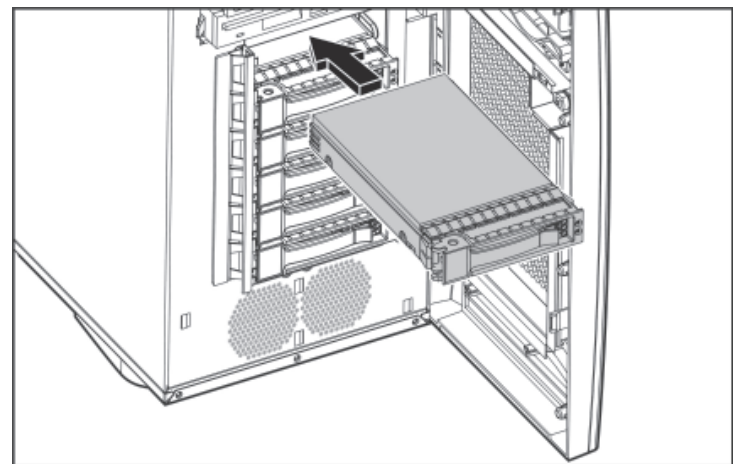


注: HPでは、専用キャリアに収納された追加ドライブを提供しています。詳しくは、HPのWebサイトを参照してください。

非ホットプラグ対応SCSIモデル



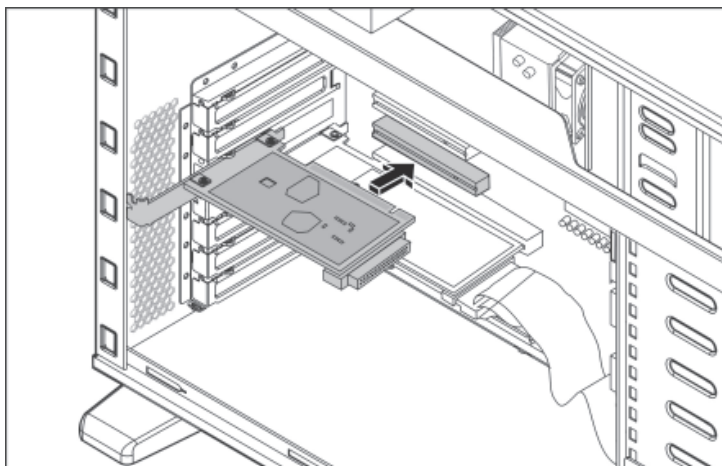
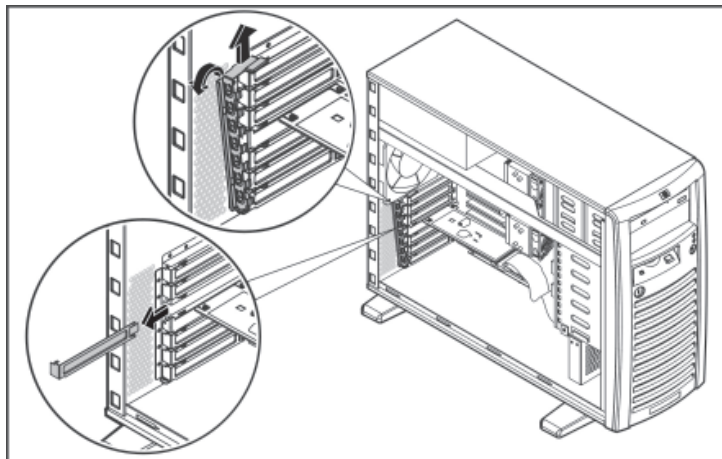
ホットプラグ対応SATAモデル



PCI拡張ボードの取り付け

注：拡張スロットの位置については、このインストールシートの「システムボードの各部」を参照してください。

注：以下の取り付け手順は、すべてのホットプラグ対応SCSIモデル、非ホットプラグ対応SCSIモデル、およびホットプラグ対応SATAモデルに共通です。



メモリの取り付け

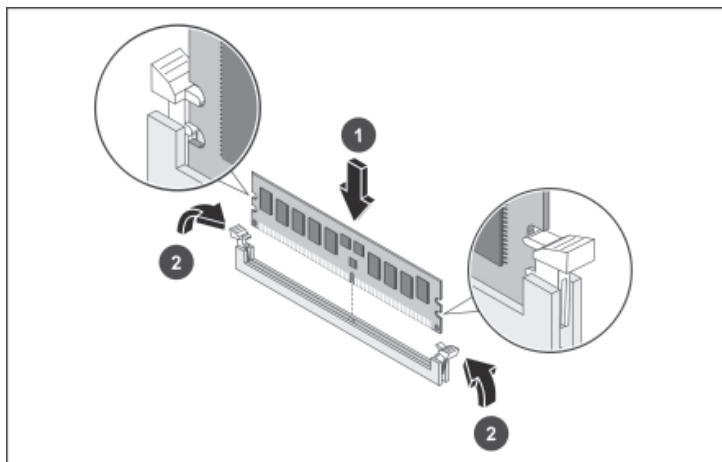
メモリモジュールを追加または交換する場合は、必ず、以下のガイドラインに従ってください。

- PC2700 333MHzレジスタ付きECC DDR DIMMだけを使用してください。
- サポートされているDIMMのサイズは、256MB、512MB、1GB、および2GBです。合計で最大8GBのシステムメモリ（4つのDIMMスロットすべてに2GBのDIMM）を搭載することができます。
- サポートされているDIMM構成は、1枚のDIMM、2枚のDIMM（1ペアまたはソケット1と3）、または2ペア（4枚）のDIMMです。3枚のDIMMによる構成は、このサーバではサポートされていません。
- 2-Wayメモリインターリーブが必要な場合は、ペアになっているソケットに同じ仕様のDIMMを取り付ける必要があります。ただし、ペアA（ソケット1と2）に取り付けるDIMMとペアB（ソケット3と4）に取り付けるDIMMの仕様が同じである必要はありません。
- 異なるサイズのDIMMをシステムボード上に混在させることができます。メモリは、スロット1から順に取り付け、サイズの大きなものから順に取り付けることをおすすめします。



注意： DIMMの取り扱いを誤ると、DIMMが損傷する場合があります。必ず、静電気放電用のアースバンドおよびアース用マットを使用してください。また、DIMMに触れる前に、必ず静電気を放電してください。

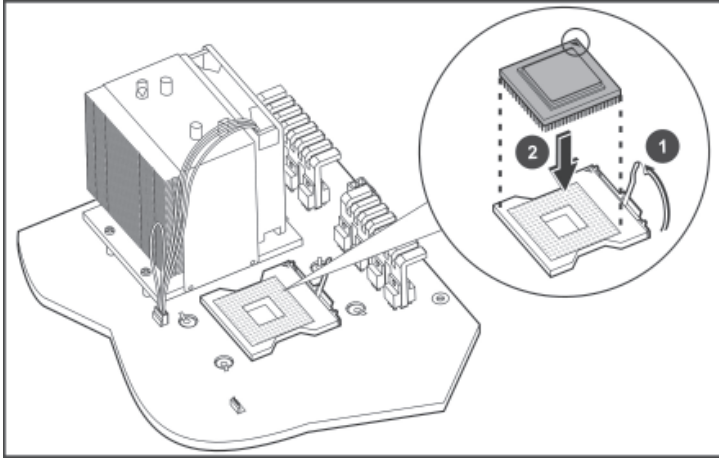
注：DIMMの位置については、このインストールシートの「システムボードの各部」を参照してください。



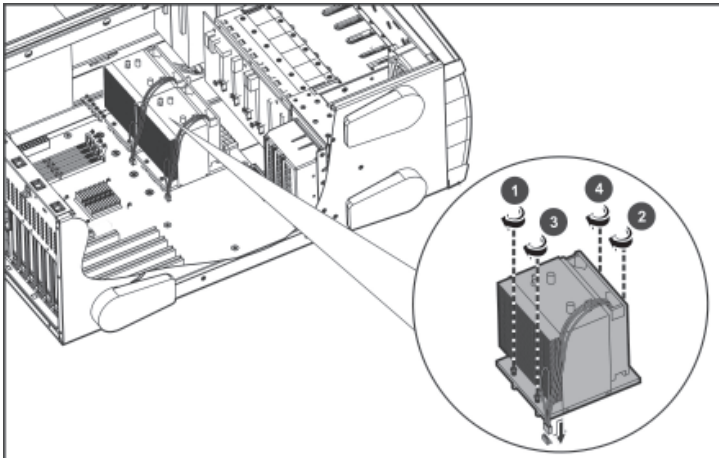
2基目のプロセッサの取り付け



警告: ピンの損傷を防ぐために、プロセッサのピン1をプロセッサソケットのピン1に合わせてください。



警告: 過熱によるプロセッサの損傷を防ぐために、ヒートシンクがプロセッサに対してまっすぐに取り付けられていることを確認してください。



追加情報の入手

追加資料については、HP ProLiant ML150 G2 Server Support CDを参照してください。また、HPの外部Webサイトに直接またはSupport CD経由でアクセスすることにより、追加情報や追加資料を入手できます。